

1323

情報部

昭和六年十月十二日

三六六

第一課

別紙

添附

昭和六年十月拾八日發

昭和六年十月十二日

在牛狂

領事 荒川 亮



0116

132

外務大臣田代爵幣原喜重郎 敬

外交部訓令並排日宣傳文ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ大石橋繁、安永、長ヨリ別紙寫ノ通り
報告アリテ御參考迄

本信送付先 外務大臣 奉天、安東、長春、鉄嶺

遼陽

101

一外交部訓令 字第五四五號
 訓令ス本年一月二十日公布ノ護照條例第十六條ノ規定ニ照シ
 護照發行機關ハ應ニ三月毎ニ護照副本及護照證明証ノ書類
 ヲ作成シ外交部ニ接告送附シ並ニ前記費用ヨリ百分ニテヲ扣除シ
 公費トナスヲ許可ス查スルニ國內各系給機關報告ノ護照副本及護
 照證明力往々ニテ條例規定ニ準セズ且三月毎ノ報告モ遲延シ
 或ハ未夕報告セサルモノアルモ右辦法ハ何等統計上困難ナルモノニアラス
 且定章ニ合セサルモノハ當該縣長ハ遵照上今後該項ノ護照副
 本及護照證明ニ對シテハ務メテ期日ニ報告送附シ以テ官金收入ニ
 便スヘシ此ニ令ス

民國二十年十月二十日

外交部政務次長代理 部務

李 錦 締

一區立第五中學校 上海市教育界救國聯合會
 東省特別區中東路棧昂々漢站
 全國各省中教育界諸公大鑒
 累日カ秋カ東北ヲ侵掠シ我同胞ヲ屠殺セルハ國人ノ痛痕極リナキ
 處ニテ抗日救亡ノ責ハ互ニ轉嫁スル場合ニテラス上海教育界同人ハ
 先月二十日正式ニ上海市教育界救國聯合會ヲ成立シカテ盡シテ抗日
 救國運動ニ從事セリ而シテ成立以來東北ニ於ケル日本帝國ノ暴行ヲ極
 カ國際間ニ宣傳シ並ニ對日經濟絶交ノ具体方案及抗日救國指導綱
 領等ヲ草案セルハ已ニ上海各新聞紙上ニ登載セル處ナカ向各方面ノ奮起
 ヲ促ス爲ニ緊會ハ本月八日第二次全体大會ヲ舉行一致可決ノ上全國教育
 界ニ電請シ各省中教育界救國聯合會ヲ組織シカテ合セテ以テ自強雪恥ヲ
 圖リシトテ通電セリ即今此時機ニ非ラレハ國ヲ救済スル自ナシ教育界諸公ハ
 進ニテ抗日救亡ヲ圖リシトテ熱望ニテ止マズ。上海市教育界救國聯合會

本月四日当地憲兵分遣隊ニ於テハ支那側郵便物檢閲ニ際シ在上海華龍路環龍路口生活週刊社ヨリ当地支那街同聚潭燒鍋李星恒ニ宛テタル左記譯文ノ如キ排日宣傳文ヲ發見押收セリ

生活週刊「小言論」緊急號外

國人ニ請ヒテ注意ヲ嚴ニス

七國條件的慘酷内容

最モ速カニ全國ヲ戒セシムル第二項

路秀社ニ十日電報ニ依リハ「日本ハ鐵道區域外ノ軍隊撤回以前ニ必ス中國ヲシテ基本要點五項ヲ承認セシメント欲シ已ニ國際聯盟行政會議々長「ブリアン」ニ國聯秘書長「ドラモン」ト米國々務卿「スチムソン」等ニ送付セリ信スヘキ方面ノ消息ニ依リハ此基本要點左ノ如シ

一、中日相互侵略セサルコトヲ誓守レ彼我ノ領土ヲ完全ニ保障スルコト

二、中國内ニ於ケル各種排日排貨ハ永遠ニ之ヲ為サンナサルコト

三、中國内ニ於ケル日本人ノ生命財產ノ安全ヲ保障スルコト

四、日欵ヨリ敷設セル滿洲各鐵道ノ借款金ヲ償還シ滿洲ニ於ケル現存鐵道敷設條約ヲ承認スルコト

五、現存條約ノ權利ヲ承認セシムルコト

「日本人ノ在滿商租問題」ヲモ含ム

今日該社電國際聯盟行政會議々長「ブリアン」ノ意

思表示ニ依リハ中國ニ勸告シテ日本ノ提出セル五項中四

項受諾セシムル自信アリ左程難事トセサルモ只中國ヲ

シテ鐵道權ヲ承認セシムト謂フ日本ノ要求ハ談判

開始ノ先決問題トシテ日本ニ對シ其ノ放棄ヲ勸告

開始ノ先決問題トシテ日本ニ對シ其ノ放棄ヲ勸告

スル竟郷音ナリト尚今夜信スヘキ方面ノ消息ニ依リハコリアン
議長ハ中國ハ最後ニ於テ此要求ヲモ遂ニ承認スルニ至ルヘシ
ト思料シ居ルモノ、如クナルモ中國現下ノ情勢ヨリ見ルニ其ノ
承認ハ困難ト見ラル然シ日本側ニ於テハ頗ル樂觀シ居ルモノ
ノ如クナルモ日本側要求中難問トセラルハ滿洲ニ於ケル各種
條約中一九一五年條約ノ二十一ヶ條ヲモ合ムトアルニアリ
以上ノ電通ヲ見ルニ「コリアン」ハ已ニ我國ニ替テ四項ヲ承諾
シ他ノ一項ニ至ラズモ中國トシテ最後ニハ承認スヘシト称シ
我カ國ニ替テ全部之ヲ承認セリト謂フカ我國「セネハレ」
代表亦中國ノ對日交渉ハ國聯ノ弁法ニ服従スルモノナリ
ト語り居レリト謂フ現在我々ハ如何ニスヘキカ、他方面ヨリ
探知スルニ我國政府ハ此ノ五項ニ對シ已ニ妥協内定セリト
傳ヘラル、某老外交家說ヲ聞クニ「前三項ハ空論ニシテ

0121

137

問題ニナラズ第四第五項ハ困難ト雖ニ十一ヶ條ハ從來ヨリ
存在スルモノニシテ何等新シキ要求ニアラス嗚呼「第一
第三ハ兩項ハ此ニシテ緊要事トセサルモ日本ハ故竟ニ我々ヲ
混乱センメトスルモナレバ、其他ノ三項ハ總テ七國條件ニ非
ズ、何ソ即チ我中國ヲ滅亡スルト共ニ國民ヲシテ日本ニ
服従センメ永遠ニ自由ヲ束縛セントスル慘酷極マル條件
ナリ、然ルニ我國政府ハ何等為スヘキヲ為サス賣國賣民族ノ
契約ニ調印セントスルニ非スヤ、故ニ我々ハ一方ニ於テ政府ノ
覺醒ヲ促シ一方亦此悲痛ナル形勢急迫シ其結果悲慘
極マルモハアルヲ以テ茲ニ大聲疾呼スルト共ニ全國同胞ノ注
意ヲ喚起シ死カヲ以テ抗争セムトスルナリ我々ハ決シテ
他意ナク且日本帝國ヲ侵略セントスルモノニ非ス第一項ハ
当然問題トナラス所謂外僑ノ生命財産ノ安全ヲ保障

138

0122

スルハ之レ國際公法上凡ソ獨立國トシテ當然其血スヘキ義務ニシテ全ク特殊條約ヲ必要トセザル處ナルヘシ第三項亦然リ之レ皆日本人カ故意ニ要求スルモノニシテ世人ヲ迷惑シ其他ノ各項ニ對スル注意ヲ欠カレムカ為企圖セルモノナルヘシ高ニ十一ヶ條苛虐條件ハ我々國民ヲ脅迫シ強制的ニ調印セシメタルモノニシテ到底之ヲ承認スルコト能ハサルモノナリ本條約ハ日本ニ於テモ取ツル處アリ好結果ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ曾ツテ米國ニ使者ヲ派遣シ所謂藍辛石井條約ヲ締結シ日本ノ在滿蒙特殊權益ノ地位ヲ認めシメ又英國三人ヲ派シテ運動シ在滿蒙特殊地位ヲ承認セシメタリト雖這ハ各國一致シテ承認セルモノニ非ス現在日本ノ要求スル第四項第五項ハ國聯ヲ通過シ國際間一致承認セルモノナルヲ以テ更ニ有力ナル保障ヲ加ヘラレタルモノト

謂フヘシ日本ハ強盜的行為ヲ以テ遂ニ成功セリ

日本側カ本事件ノ將來ヲ大ニ樂觀シ居リト謂フモ怪シムニ足ラサルナリ但シ坐シテ中國ノ割讓ヲ待ワト雖モ其時ニ於テ無理ニ對抗セサルヤ「之ヲ承認シ」最モ慘酷ナル第三項ヲ承認セハ今後中國教科書ニ抗日救國ノ意味或ハ新聞雜誌乃至演說中日本ニ對スル批評的言詞或ハ日貨抵制國貨提唱ノ文意等總テ條約ノ根據ヲ以テ日本ヨリ抗議セラレ我カ教育我カ言論我カ愛國運動乃至ハ我カ經濟上ニ干渉壓迫セラルニ至ルヘク(第四第五ノ兩項ハ固ヨリ慘酷ナルカ目前尚局部的物質ノ損失スルニ過キサル如ク見ラル、モ將來其影響甚大ニシテ國家存亡ニ關係ス)實ニ第三項ハ全國全民族ニ及ホスモノニシテ即チ第三ノ朝鮮トナリ永遠ニ自由ノ身トナルヲ得サルヘシ其ノ

惨酷更ニ大ナリ？、歐洲戦争當時奧國ハ「セルビヤ」ニ對
 シ為シタル惨虐條件ニ因リ「セルビヤ」教科書ノ内容ニキ
 涉セルコトアルカ「セルビヤ」ハ小國ト雖死ヲ以テ之ヲ拒絶セリ
 現在中國ハ無國心ノ状態ニアルモ吾等日本ニ歸順スル
 考ナルヤ？、我々ノ希望スル處ハ其熱淚ヲ傾ケ其至
 誠ヲ盡シ全國ノ同胞ニ嚴重注意ヲ求メ以テ政府ヲ鞭
 鞭監督シ若シ政府甘心亡國ノ奴トナラハ我々ハ座視スルニ
 忍ヒス起ツテ自ラ救ハサルヘカラス

以上

規

通商
情報部

1323

107

第一課

公第 三七〇 第

第一課

送

昭和六年十月拾九日接

昭和六年十月十四日 藤子及日

在牛莊

領事 荒川 亮

印

外務大臣田代島尉中 原喜重郎 破

上海市教育界救國聯合會臨時條例ニ関スル件

本件ニ関シニ當ル 察示 署長ヨリ別紙 寫ノ函ヲ
報告アリテ 御 参考 迄

本信 送付 先 外務大臣、奉天總領事

在牛莊日本領事館

142

(0126

上海

上海市教育界救國聯合會臨時條例

- 一、宣名、本會ノ名稱上海教育界救國聯合會ト稱ス
 - 二、宗旨、本會ハ排日ト救國ヲ旨トス
 - 三、會員、本會ハ上海市各學校及學術團體代表ヲ組織ス
 - 四、組織、本會ハ選舉ヨリ執行委員ヲ定メ其定員十一名候補委員五名トス
 - 2、執行委員會日ニ常務委員三名書記一名ヲ置キ委員中ヨリ選抜ス
 - 五、工作、1、好ク研究シテ対日經濟ヲ絶交ス
 - 2、教育界ヲ指導シテ救國ヲナス
 - 3、救國宣傳ヲ爲シ國內外ノ同胞及各國民衆ニ対シ日本ノ暴行スルヲ主眼トス
 - 4、其他一切ノ排日及救國ヲ工作ヲナス
- 在牛莊日本領事館 —
- 六、會期、大會ハ執行委員會ニ於テ議決後召集スルモトス
 - 2、執行委員會ハ每週一回死闘會日ニ必要アルトキ臨時會ヲ開催スルコトヲ得之レカ召集ハ常務委員ニ於テ行フ
 - 七、會費、1、小學校最低額十元(六年以下學生半額トナス)ト得
 - 2、中學校最低額二十元
 - 3、大學校最低額五十元
 - 4、學術團體ハ中學校ニ同シ
 - 八、會址、臨時ニ西門蕙家湖路市立務本女子中學校ニ設ク
 - 九、附則、本條例ニシテ若シ不完全ノ處アルトキ大會日ニ於テ過半数ノ決議ヲ以テ改正ス

以上

8810

144

0128

143

0127

郵政管理局

第一課

（乗）

昭和六年十月拾九日接獲

満了

公簿三十九號

昭和六年十月十四日

在牛莊

領事 荒川 充 雄

外務大臣岡田英次郎 喜重郎 敬

抗日救國會代表團南京潜行ニ関スル件

首魁ノ件ニ関シ凡ソ房名等察署長ヨリ別紙寫
ノ通報出アリタリ 御答ヲ希

本信送付先 外務大臣 奉天総領事

在牛莊日本領事館

145 (0129)

抗日救國會代表團南京潛行

本月八日奉天ヨリ来互セル查察電燈廠科員張廷仁
ノ洩ス所ニ依リハ滿洲事變以來查察者ノ各機關自本
軍ノ封鎖ニ遭ヒ總有行政、交通、通信、等制限サレ
タルヲ以テ我者民ノ憤慨極ニ達シ居シ先日本側ノ勢力
偉大ナル恐レ隱忍自重何等明言スル勇氣ナク沈黙セ
ルニ過キサカ其後日本軍ハ毫モ退讓ノ意老ナク益々
機ニ乘シ積極的行動ヲ執リウアルモ惟フニ南京方面ノ
人キ斯ルニ真相ヲ知悉セサルヲ遺憾トシ之カ狀況詳細報
告ノタメ今回查察各有志相謀リテ抗日救國ノ趣旨ヲ
以テ工商學各界ヨリ代表者計七十二名ヲ選出シ本
月四日私力ニ奉天ヨリ北平ヲ經テ南京ニ向テ出發セリ
以上

在牛莊日本領事館

1323

照會要略

第四十三號

第一課

野村

別紙

添附

昭和六年三月廿二日發

昭和六年十二月十六日

満

23/12

精製部

乙 領 在 牛 莊

事

荒川充



外務大臣 犬 美良 毅 殿

東北民衆及日救國會、排日文ニ関スル件

本件ニ関シ大石橋 毅ニ密着長ヨリ別紙寫入通

リ報告アリタリ 御参考迄

本信送付先 外務大臣、奉天総領事

147

0131

東北民衆及日救國會ノ排日文書押收

東北民衆及日救國會ハ蓋平縣政府宛左記譯文ノ如キ
排日文書ヲ郵送シ來タルカ昨九日當地遣憲兵分遣隊ニ
於テ發見之ヲ押收セリ。

記

全國父兄兄弟姉妹ニ告ク。

國家不幸ニシテ累日ノタメ奉天吉林ヲ己ニ占領セリ其
上黑龍江ハ蹂躪セラレ我カ民衆ヲ戮殺或ハ財産ヲ掠奪スル
等凡テ血ヲ有スルモノハ一人トシテ悲憤セザルモノナカズヘシ茲ニ
於テ同胞ハ決心覺悟ヲ有シ敵ニ當リ一切ノ犧牲ヲ拂ヒ
以テ我中國ノ恢復ニ努メサルヘカラス中華民國ハ不屈不撓偉
大ナル精神ヲ現リサルヘカラス學者同様ノ袁金鎧盜名學者
者ハ趙欣伯無賴漢ノ燕洽ノ三名ハ目前ノ名利ニ迷ヒ

在牛莊日本領事館

日本ノ狗トナリ自己ノ死ヲ恐レ救國罪人トナシ袁金鎧ハ維
持會ノ名義ヲ以テ日本人ノタメ中國ノ政權ヲ獲得シ趙欣
伯ハ偽市長ノ資格ニテ日本人ヲ奉天者内ニ多數配置シ
燕洽ハ日本ノ命ヲ受ケ同胞ヲ壓迫シ之等賣國配下ハ
祖宗ヲ恥シメ子孫ヲ傷ケルカ如キ其ノ罪叔ス可ラス彼等ハ
日本ノ狗トナルフトニ甘シテ國ニ及スルノ意ヲ有シ居んカ果シテ
其ノ意ハ那辺ニアルヤ若シ名譽言ノタメトスレハ此ノ惡魔ハ全
國ニ及フ又其罪萬年絶ハサルナリ又利益ノタメトスレハ即チ
中國ニ居住スレトモ不可能ナリ且ツ多大ノ金錢ヲ所持スレ
トモ何等ノ意味ヲ為サズ依テ全國民衆ニ一致團結シテ政府ニ請願
レ前記三名ニ對シ懸賞附逮捕ヲナシ暗殺ヲ計リ以テ賣國奴ノ
戒メトナサムコトヲ希望シテ止マサルモノナリ。

民國二十年十一月八日

東北民衆及日救國會

日本侵略地圖發行宣傳文押收

元奉天大西関現北平東四十七條二十七號東北建立新興
地學社代表魏鴻王ナルモノ蓋平縣稅捐局長外四名ニ對シ
左記譯文ノ如キ日本侵略地圖發行ニ關スル宣傳文ヲ郵送
シ來リタルヲ去ル八日當地憲兵分遣隊ニ於テ發見之ヲ押

收セリト

記

總理大人殿

呈葉ニ我取リ、及日本侵略的地圖各一冊ヲ郵送致シシタカ御
覽ニナリシタテセウカ閣下ニハ政務多端ノ時テスカラ假令見
ル暇カナラトモ之ヲ破棄スルカ如キコトナクテセウ、小生ノ地圖ヲ作
成ヤン動機ハ衣食住ノ為テモナクハ小生出生ノ為書イタモノテモ
アリマセヌ、即チ中國ヲ愛スル為又中國ヲ救フカ為メ書イタノテス
所謂國家ノ興隆ト滅亡ハ百姓一人ト雖モ責任カアリマス此門

在牛莊日本領事館

ヲ閉シテ軍ヲ作ル思想ヲ實現ノ後ハ中央宣傳部カラ表彰
セラシ又張副司令モ贊成ノ上出資セラシ又國內各界父老若年
ノ法團相前後シテ援助下サイミンテ既ニ三回出版シシタ其數ニ万部
印刷ノ資金ニ万元以上カ、リシタ今回又出版シタルハ過去經濟
上ノ援助者ニ酬ヒ一方ハ廣ク宣傳ノ意味ト基金募集ノ為
テアリマス目下山川色変ハ國難目前通り遼寧省、會社ハ
完ク倒レ什器ハ全部紛失悲憤胸ニ迫リマス幸ニ身ハ
未タ死セス高奔走呼號現在又北京ニ於テ第三回ノ出版ニ
着手シシタカ其地圖ニ二種アリ、日本侵略下ノ中國地圖
凡テ日本ノ昔時ト最近ニ於ケル我國侵略ノ實況ヲ一々描
出シテ一目瞭然テス、

以上

情報部

公第 四一六 號

別紙 添附

昭和六年三月廿日

昭和六年十一月二十八日

在牛莊

領事 荒川 亮



外務大臣岡野富壽殿中原喜重郎一敬

中國抗日青年團學堂籌備委員會ノ排日
宣傳文ニ関スル件

本件ニ関シ當々察事署長ヲ別紙寫ノ通り
報告アリタリ御参考迄

本信送付先 外務大臣、奉天

在牛莊日本領事館

中國抗日青年團營口籌備委

員會ノ排日宣傳文入手ノ件

中國抗日青年團營口籌備委員會ノ名ヲ以テ本月二十日
別紙訳文ノ如キ排日宣傳文ヲ市内ニ配布セル旨匿名ヲ
以テ當署ニ投書シ來リタルカ右委員會氏名ノ陳殿權ハ
營口市立第二五小學校々長又由在英ハ市立第六小
學校々長、常聖周ハ市立第一小學校々長、劉振輝(鋒
ノ誤リナラン)ハ市立第三小學校々長ニシテ如斯教育
關係者ノ發起セルモノナリトスレハ教育局長王清民モ或ハ
關係シ居んニ非ラサルヤト思料セラシト矣有之候

譯文

全國同胞均鑒

東省ニ慘禍大災難發生ス即チ日本ハ原因理由ナク

在牛莊日本領事館

戰端ヲ開キ我遼寧、吉林兩者ヲ擾亂シ重要都
市ヲ占領シ同胞ヲ蹂躪ス我國ハ事件發生スルヤ無低
抗主義ヲ以テ始終セリ而モ日本人各地ヲ侵佔シ其野心
ハ愈々出テ、愈々猛烈ヲ極メ我同胞ハ之ニ屈服シ鉄蹄
下ニ喘キ斃死ヲ待チ居レル状態ニアリ若シ速カニ之等ヲ
防止スル方法ヲ講セサルニ於テハ則チ我東省ノ土地ハ蚕蝕
シ盡サルニ至リ東省民衆ハ盡ク斃死セシメラルニ至ラン
現在又彼等ハ名ヲ極氣治療ニ借リ我同胞ヲ偽網奔
走シ病氣ヲ診察シタル上毒質藥ヲ注射ス之時間數
到來スレハ死スル方法ナリ其考ハタルヤ残忍極マリナシト
謂フヘシ、五口人ニシテ生命ヲ求メス七國ヲ虜ヘサルモノハ夫
レ造ナルモ苟モ生命ヲ求メ七國ヲ憂慮スルノ士ハ連ニ至チ
テ衆人相一致シ心ヲ一ニシテ殘念忍暴虐ナル日本軍ヲ

11

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--------|--------|---------------------|-----------------------|---------------------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------------|----------|
| 最短期間ニ引揚ケシムル事ニ努カスヘシ即チ | 一、日貨抵制 | ニ、満鉄回収 | 三、次テ殖民地タルコトヲ取消サレムヘシ | 四、南方軍ヲ速カニ到着セシメ内應セシムヘシ | 以上ノ実現ヲ促進セシムコトヲ切ニ希望ス | 中國抗日青年團 營口籌備委員會 | 陳 殿 權 | 常 聖 周 | 由 在 英 | 劉 振 鐸 | (鐸、鐸字ノ誤ナラン) | 在牛莊日本領事館 |
|----------------------|--------|--------|---------------------|-----------------------|---------------------|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------------|----------|



1323

情報部

第一課長

公文 五〇六號

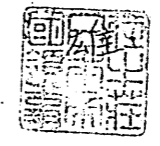
別紙添附

昭和六年三月廿



昭和六年三月二十四日

領事 荒川 充



亞細亞局

外務大臣 犬 美良 毅 破

東北民衆及び救國會及万国道德会及日宣傳文ノ件
本件ニ關シ大石橋 警察署長ヨリ別紙寫ノ通り
報告アリタリ御参考迄

本信送付先 外務大臣 奉天總領事

160

0140



東北民衆反日救國會及萬國道德會貴州

分會ノ反日宣傳文押收

本月十二日東北民衆反日救國會ハ左記原文ノ如キ反日宣傳文六十枚ヲ万國道德會貴州分會ハ別添(局長ノ之)ノ如キ排日的情報郵代電ヲ何レモ海城縣公安局長宛郵送シ來リタルカ海城憲兵分遣隊ニ於テ支那側郵便物檢閲中發見之ヲ押收セリ。

記

東北民衆反日救國會

政府ニ請願武カヲ以テ東北失地回收旨一言

日本ハ二月ノ中ニ遼寧吉林ヲ占領セリ我カ政府ハ之ニ抵抗セス軍事責任ヲ明カシ又國際聯盟ノ調停アルヲ聽キ其權威ヲ信シ且平和保持ノ為ニ日本ノ強暴ニ忍

在牛莊日本領事館

フヘカヲサルヲ忍ビタルナリ然ルニ日本ハ國際聯盟ヲ頭腦ノ如ク輕シシ非戰公約ヲ視ルコト廢紙ニ等シ十月十四日ニ撤兵セサルノミナラス飛行機ヲ以テ爆彈ヲ投下シ通遼ヲ砲撃セリ十一月十六日ノ契約ヲ違背セス而モ暴徒ヲ唆族シテ天津ヲ擾乱シ且多數ノ兵ヲ派遣シテ龍沙ヲ奪取セリ近ク又宣統皇帝ヲ威嚇シテ民國ヲ帝國ト稱サシムル等其ノ暴虐實ニ枚舉ニ遑アラズ吾カ東北民衆ハ此兇暴殘虐ノ下ニ忍ビ靜カニ解決セラルヲ待テ居レルカ即チ國際聯盟ヲ信スル所以ナルヘシ然ルニ再度ノ開會ニ於テモ道德的觀念ヲ以テ徒ラニ空言ニ托シ居レルカ本會ハ政府ニ服從セサルモニ非ラサルモ又本會ニ於テ讓歩セルニ和戰方針未タ決定セルヲ聞カス夫レ國已ニ破レ家已ニ亡ヒ和平政策ニ事實上ニ於テ絶對

無効ヲ証明ス此秋ニ當リ吾々ハ取ヲ忍ヒ第二ノ朝鮮人ト
 ナルカ然ラス即チ失地失城ノ地域ニ於テ一戰ヲ以テ自ヲ救ハ
 サルヘカラス昔背鬼ハ僅五百ノ兵ヲ以テ宋ヲ占領シ
 又謝石ハ三千ノ兵ヲ以テ肥水ニ於テ大兵ヲ破リタル之皆少
 以テ衆ヲ撃テ危險ヲ轉シテ安穩ナラシメタルモノナリ
 土地廣クシテ民衆多ク帝ニ打倒帝國主義ヲ標榜スル我
 カ革命政府ハ失地千里高隣邦(國聯)ニ救ヒテ求クルノ
 要アランヤ百カノ兵ヲ擁シナカク少数ノ日本軍ニ壓迫ヲ
 受ケ政府高宣戰ノ勇氣ナク人民亦必死ノ決心ナク他ノ
 カヲ借リテ敵ヲ退カシメトシテ國取ヲ忍ヒ天地ニ恥スルコト
 無ク當局者亦平素酒色ニ耽リ孫文ノ遺訓ヲ無視スルニ至
 レリ又時ニハ自衛自身ノ繁榮ヲ圖リ戰場ニ於テモ戰
 勝スルコト能ハス敵ヲ管外ニ驅逐スルニ過キサル状態ナリ斯ノ
 在牛莊日本領事館

如キ政府ハ何ノ役ニ立ツヘキ往年世界大戰ニ於テ猶遠
 カ佛國ヲ攻ムル時自耳義ヲ通過セムトス際全國君主ハ
 毅然トシテ之ヲ拒絶セリ之レ民族生存上將亦國家体面
 保持上ノ為チ大小強弱ノ差ニ依リテ成敗ヲ定ムヘキモノニ
 非ラス利鈍ヲ以テ決セラルヘキモノニシテ逆賭シ難キモノ
 タルコト明カナルヘシ「パリー」會議ニ於テモヨリ好キ收穫ヲ
 得ムトセハ夫レ相當ノ努力ヲ要スヘキモノニシテ其ノ努力
 タルヤ犠牲心ノ有無ニ依リテ表現セラル、モノナリ日本強
 國ナリト雖モ内ニ共產黨ノ憂ヒアリ外ニ朝鮮ノ患アリ
 海ニ陸ニ半西報者多クシ吾等ハ良ク上下心ヲ一ニシ決死
 ヲ以テ戰ヒ戰備ヲ完備シテ持久戰ニ移ラン軍事ノ勝敗
 ハ之ヲ常ニ決セラルヘク日本ハ此間経済的ニ崩潰シ内乱暴
 發スルニ至ルヘシ吾等ハ何等懼ル、處ナク一戰ヲ以テヘキナリ

126

事既ニ切迫ン縱容トシテ討議スル處ニアラス

宜シク我軍北三千五万民衆ハ全國父老兄弟ニ率先シテ
連カニ政府ニ對シテ期限ヲ附シテ日軍ヲ撤去セシムルカ或ハ
武力ヲ以テ之ヲ回收スル等最後ノ決意ヲ固ムヘキナリ
我カ父老兄弟亦連カニ起リテ自衛ノ爲ニ共ニ國難ニ立
ハキナリ吾カ軍北民衆ハ先ツ其犠牲トナルヲ甘シテ前
線ニ立チ居テ自ト共ニ之ヲ覺悟ヲナシ難事ニ墮臨ミ
決シテ免レントスル勿レ吾カ政府ニ國家保衛ノ能力アリ
ヤ否ヤ、吾民衆ニ獨立生存ノ能力アリヤ否ヤ、

以上

在牛莊日本領事館



通商局

1323

陸軍部

五〇五番

第一課

別添附

昭和六年三月廿八日接

昭和六年十二月二十四日

満了あり

領在牛荘

事 荒川 充

雄

陸軍部



外務大臣 犬 美良 毅 破

166

0146

排日出版物押収ニ関スル件

本件ニ関シ大石橋 警察署長ヨリ別紙寫ノ通り
報告アリタリ御参考迄

本信送付先 外務大臣 奉天総領事



日本軍閥兇暴行為ニ関スル出版物押收
 在上海佛學書局ハ本月十六日海城々内佛教宣講堂宛左
 記譯文ノ如キ排日的記事アル雜誌佛學第十二卷第十一
 號ヲ郵送シ來リタルカ海城寓兵分遣隊ニ於テ支那側
 郵便物檢閲中發見之ヲ押收セリ。

記

台灣朝鮮日本四千萬佛教徒ニ告ケルノ書

現代歐洲國家ハ帝國主義ニ走リテ民族革命ノ為ニ反
 抗セラルシ或ハ資本主義ニ走リテ共產革命ニ反抗セラルシ
 歐洲文明ハ正ニ消滅ノ末路ヲ辿リワアリ吾人ハ今ト佛教ヲ
 以テ亞細亞各民族文化ノ根源トシ亞細亞民族文化及民
 族國家ヲ復興シ相互扶助シテ信仰及ヒ修睦ノ大聯合ヲ
 ナシ進シテ歐洲ノ立國精神ヲ轉化サセテ國際平和喜樂大

在牛莊日本領事館

道ヲ實施センメントス而シテ亞細亞各民族ノ指導者タルハキ
 ハ印度中國日本ノ佛教徒タルニ其過半數ヲ占ムレ日本民族
 ハ今ヤ其ノ貪慾曠倉ヲ抑制シ能ハス因果ノ理ニ迷ヒ兇
 暴行為ヲ擅ニシテ干戈ヲ動シテ遼寧吉林兩者ヲ
 侵略シ其ノ海軍陸戰隊ハ天津青島海州上海及ヒ長江
 沿岸各都市ヲ脅シ滿蒙人ヲ脅迫シテ之カ傀儡トナシ
 獨立センメントナシテ要五道一時ニ併ニ行ヒ五族共和ノ中
 華民國ヲ殘權シ東亞ヨリ南亞ニ至ル全亞細亞佛教民衆
 フシテ相互屠殺ノ途ニ出テシメントシ亞細亞民族復興ノ活路
 ハ突然茲ニ塞カレ世界平和ノ基礎ハ忽然トシテ破壊サル
 若シ日本最近ノ對支那ノ行動ニシテ進展スルナラハコレ地大ニ
 人多ク新興ノ氣運勃々タル中國民族ハ日本ノ為ノ完全ニ
 併吞サレ其禍類ニ至リ尋イテハ歐米各國ノ干渉ヲ受ケ

東亞ヲ以テ戰場トシ世界第二次戦争發生ノ端緒ヲ開クモノニ
 シテ支那カ其害ヲ受クルハ勿論ナルモ日本モ亦数十年來建
 設シ來リタル政治的経済的ノ優位ヲ一挙ニシテ壊滅ニ歸セ
 ン而シテ全亞細亞民族聯合復興ノ機縁ハ断タレ國際間ノ
 平和モ亦崩壞シ世界ヲシテ紛争中ヨリ出ワル能ハサラシム
 ルトハ日本沙少数ノ貴族軍閥政客ノ所為ニシテ日本全
 國民衆ノ公意ニ非ラサルハ勿論ニシテ明達ノ人士ハ之ニ反
 對スル者多キモ軍閥政客ノ暴威ノ下ニ如何トモナシ能ハ
 サルノミ。憐ムヘシ日本及朝鮮台湾ノ民衆ハ日本ノ軍閥
 政客ノ為ニ壓迫セラレ永久ニ論滅セントス速カニ起ソテ
 自救セヨ。瑜伽師地論菩薩地戒品ニ曰ク（中略）
 コニ於テ台湾朝鮮日本ノ四千萬佛教信徒ハ速カニ
 一大聯合ヲ為シ菩薩ノ大慈大無畏ノ神力ヲ以テ日本ノ
 軍閥政客ニ因果ノ正法ヲ論シ一切ノ非法行為ヲ制止セシメ
 若シ之ニ聽從セサルハ東亞南亞及全地球上ノ佛教徒ハ聯
 合シテ國際佛教團ヲ組織シ以テ亞細亞各民族ヲシテ
 自由平等ノ獲得ニ精進セシメ亦世界各國聯合シテ各民
 族ノ平等ヲ計リ永久ニ平和ヲ實現シ起ソテ日本政客
 ヲ廢黜セシ台湾朝鮮日本ノ四千萬佛教徒ヨリ郷等ハ
 眞ニ佛教ノ信徒ニシテ佛陀ノ心ヲ以テ心トシ眞ニ菩薩ノ
 教訓ヲ奉スル者ナラハ速カニ日本ノ軍閥政客ニ對シテ
 其ノ非法行為ヲ制止サレヨ

我台湾朝鮮日本ノ四千萬佛教同胞ヨリ速カニ起テヨ
 以上

在牛莊日本領事館